

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470101336	事業の開始年月日	平成18年1月1日	
		指定年月日	平成18年1月1日	
法人名	有限会社 福寿の里			
事業所名	福寿の里 グループホーム			
所在地	(230-0003) 神奈川県横浜市鶴見区尻手2-4-21			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福寿の里グループホームでは、次の諸点に特に力を入れて利用者様の支援に当たっています。 1. 食事には、旬の食材を使い手作りしている。 2. 外出できる利用者様には、月に一度昼食を兼ねてデパートに食材の買い物に出かけている。 3. レクリエーションでは、月一度以前入居していた方のご家族（ボランティア）によるウクレレの演奏会がある。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価機関 評価決定日	平成22年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点> ・開設5年目を迎え、自治会に加入して地域の協力を得ながら、祭りや花見などの行事、ダンボール回収のエコ活動にも参加して、地域に溶け込んでいる。 ・便秘予防のための日々の体操と買い物を兼ねた散歩で、利用者の健康の維持に努めている。 ・職員・代表者が、栄養面を考え冷蔵庫の食材を活用して、一週間分の多様なメニューを作っており、食生活が改善したため一部の利用者は、入所前より黒髪が増えたと喜んでいる。 <工夫点> ・職員は排尿チェック表で、トイレの自立が困難な利用者ごとのリズムをつかんで支援している。 ・准看護師の指導で職員への内部研修を行い、ターミナルケアの実践につなげている。なお、事業所で最期を迎えた利用者のご家族が、毎月ウクレレ演奏のボランティアで来所している。 ・入浴を好まない利用者に対しても言葉かけの工夫をし、利用者全員が入浴できるように努力している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

福寿の里

事業所名	福寿の里グループホーム
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに事業の目的及び方針を定め、ホーム内に掲示し、全職員で取り組む努力をしている。	・理念に「安心できる日常生活、支えあい共存できる生活」を居間に掲示している。 ・理念の具現化に向けて、申し送りやスタッフ会議で確認しあい、利用者主体の支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事（お祭り・お花見など）に参加し交流を深めるよう努力しているが日常的な交流には至っていない。	・自治会に加入している。 ・地域のカラオケ大会やお花見に参加して、地域住民との交流を深め、事業所の前を神輿が通るようになった。 ・自治会のエコ活動に参加し、ダンボール回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献出来るよう話し合い取り組んでいるが実践には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設立に向け努力しているが、まだ設立するまでには至っていない。	・運営推進会議は夏までには日取りを決めて実施する計画である。自治会長、民生委員の参加は決定している。	・会議には、地域包括支援センターや区の職員、利用者家族に参加を依頼して開催されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要があれば市町村窓口に出向き相談できるよう取り組んでいるが、協力関係を築くまでには至っていない。	・地域包括支援センターの研修会「地域活性化について」に参加し、その内容は事業所内で全職員に報告している。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルに基づき、拘束のない生活支援を実施している。	・年1回、准看護師を中心に身体拘束防止についての事業所内研修を行っている。 ・玄関・居室は施錠していない。玄関は夜間のみ防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルに基づき、日々の生活支援を行っている。また講習会や研修会に出来る限り参加できるよう努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があれば関係者と話し合う機会を設けるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム内で面談を行い、解らない事については、十分な説明と理解・納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成21年12月 家族会を設立し意見交換が出来た。今後2～3ヶ月に1回家族会を開催する予定。	・クリスマス会を兼ねて12月に家族会を立ち上げ、意見を聴く機会としているほか、利用者とは毎月外食をしながら意見交換をしている。 ・家族の来訪時に意見や要望を聞いている。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な機会は設けていない。	・管理者は、年1回の契約更新時に職員の意見を聴いて、運営に反映している。 ・「利用者に自立の可能性あり」と判断した職員の意見を吸い上げ、その後の継続的なリハビリにより自立できた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回、職員と面談し、職員の希望に添えるよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりに、担当者を決め、何でも相談できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営者自身が研修会や交流会に参加し、同業者との交流を深め、情報の収集に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談者は殆ど家族のため、殆ど利用者本人と面談する機会がない。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向に耳を傾け、安心できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人と家族の意向に沿った計画作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共有できる時間を持てるよう心がけ努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の参加・協力が得られるよう働きかけている。また、面会の回数を増やして頂けるよう依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を殆どせず、いつでも面会できる事を家族に説明し伝えて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の友人や知人と、いつでも電話できるよう支援している。 ・馴染みの友人との面会の希望があれば、対応できる体制にあるが、これまで利用者からの要望は出ていない。 	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションにより、利用者同士が互いに励まし助け合う事で孤立せず生活ができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家庭訪問や電話での対応をし、相談やアドバイスをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から利用者の意向を把握し出来る限り意向に沿えるよう努力している。	・普段の利用者との会話の中で、散歩先や屋上での気分転換などの希望を聞いている。 ・言葉が不自由な方には、表情やしぐさから思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・ケアマネージャーからの情報を基に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行い、特記事項を記録に残し職員全員で共有している。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を考慮し計画作成をしている。また計画作成後は、家族に説明し同意を得ている。	・アセスメントを基に利用者・家族の要望と主治医の意見を入れてカンファレンスし介護計画を作成している。 ・短期では3か月、長期計画は半年後に見直している。利用者の状況に応じて都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項のみを個別に記録し職員間で共有し計画見直し出来るよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会での意見・意向を基にし、その時々ニーズに対応できるよう職員間で話し合いが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる月1回のウクレレ演奏会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認をし、本人や家族の意向に沿えるようにしている。また希望に応じて往診依頼も行なっている。	・かかりつけ医への通院は家族が同行し、同行できない場合は、協力医に依頼している。 ・協力医の南武クリニックが月2回往診し、日航ビル歯科治療室が毎週往診している。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師がおり、職員からの情報を基に日々の健康チェックをしている。また必要に応じて受診出来るよう家族と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係の協働・連携は難しい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族の意向を尊重しながら主治医と話し合いを持ち、職員全員で方針を共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書に看取りの記述はないが、家族・主治医と話し合い、准看護師の職員を中心に看取った経験がある。 ・事業所で最期を迎えた利用者の家族が、感謝の思いを込めてボランティアとして参加している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに基づき対応するよう口答にて指導している。定期的な訓練の実施は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施は出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、防災関係機器の点検を行っている。 ・デイサービスとの合同訓練で平成22年4～5月に、避難訓練は予定しており、地域の方にも参加を呼びかけている。 ・食料・水は備蓄している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・避難訓練を早期に実施し、避難経路を確認することが望まれます。 ・防災関係機器と避難訓練に対する関係書類の整備を期待します。

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重と 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに注意しながら、信頼関係を築けるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規程に利用者のプライバシーの確保を記載し、職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・職員は親密感のある話しかけでも、利用者の自尊心を損ねないように配慮している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話しやすい状況を作れるよう努めている。また利用者と職員が共有できる時間を多くするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲食時間以外は利用者一人ひとりの生活リズムを崩さないよう意識し業務にあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症があり化粧品の使用には制限をさせて頂いている。散歩を兼ねて理髪店の利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が見れるよう1週間のメニューを貼り出している。一緒に食事準備・片付けをするよう言葉かけし促しているが拒否されるため出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は職員と一緒にテーブル拭き、下膳を行い、調理を担当した職員も一緒に食事をしている。 ・毎月1回は外食に行き、誕生会では手作りケーキを楽しんでいる。 	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に家族から食事状況を聞き、一人ひとりの食事量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスを基に、利用者1人ひとりに合った口腔ケアまたは言葉かけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の表情やしぐさを見極め、言葉かけや誘導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人別の「摂食量・排泄チェック表」があり、パターンを把握し、トイレへの誘導を支援している。 ・特に便秘がちな利用者には、毎日体操をし、水分補給と服薬にも配慮している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの中に体操を取り入れ、体を動かすよう支援をしている。また必要に応じて主治医と連絡を取り、緩下剤の処方をして頂き調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入浴できるよう支援している。自立度が低いため利用者1人ひとりに合わせた支援は出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は基本的には週2回で、夏場は3回できるように支援している。 ・入浴を好まない方には「入浴すると体が温まりますよ、気持ち良くなりますよ」と声かけするなどの工夫をしている。 	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者1人ひとりの生活リズムを崩さないよう心がけている。また昼夜逆転しないようレクリエーションへの参加を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの薬の説明書を準備し職員がいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除は利用者と一緒にできるように働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ散歩に出かけられるようにしている。月1回買い物かねて昼食のため外出支援をしている。	・洗濯物干しを兼ねて、日常的に屋上で外気浴をしている。その日の天候や体調に応じて近くの公園に車椅子の方も一緒に出掛けている。 ・職員は、食材などの買い物に利用者を誘っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、家族と話し合い、現金を持たせないようにしている。必要時は、家族と連絡を取り合い、立替払いにしている。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの要望により、緊急時のみ電話連絡するようにしている。利用者から希望があれば、日中のみ職員が電話連絡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花等を飾り利用者が季節を感じられるようにしている。	・目に光りが入るのを抑える必要がある方のため、居間の明るさは控え目にして、TVは落ち着いて楽しめる畳コーナーに置き、生花を生け、バルコニーで金魚を飼うなど心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の居場所は確保出来ており、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ってきて頂き、家族・本人がレイアウトしている。	・居室には馴染みの整理ダンス、家族の写真を置き、その人らしく過ごせるよう支援している。 ・居室の温度と換気は、職員が調節している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全面をバリアフリーにし転倒などに注意している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 福寿の里グループホーム

作成日 22 年 4 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を設立していない。	運営推進会議を設立する。	地域包括支援センター・区の職員・利用者様家族に依頼し、設立に向けて取り組んでいく。	3～4か月
2	35	避難訓練が実施されていない。	避難訓練を実施する。	避難訓練の実施に向け、防火管理者と話し合い避難訓練を計画する。	1～2か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。